

全面散布できる茎葉処理型除草剤について

近年、大豆圃場で問題となっている帰化アサガオ類をはじめとした難防除雑草等の雑草害による大幅な減収が懸念される場合の対策剤として、大豆の生育期に圃場全面に散布できる一年生雑草に効果のある茎葉処理剤が3剤農薬登録されている。

これら3剤の使用回数は、全面散布の場合、栽培期間中に1回ずつとされており、土壌処理剤との体系処理で使用される。各剤で効果が高い雑草の種類が異なるため、雑草の発生状況を確認して使用する。

また、これら除草剤はいずれも、大豆への薬害が生じることが確認されている。使用に当たっては薬害を助長しないよう、使用方法に留意する。

除草剤名	パワーガイザー液剤	大豆バサグラン液剤	アタックショット乳剤
成分名	イマザモックスアンモニウム塩	ベンタゾン	フルチアセットメチル
散布時期	大豆の出芽直前～3葉期	大豆の2葉期～開花前	
	(雑草の発生始期～2葉期)	(雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫45日前まで	(雑草発生期(草丈10cm以下)) 但し収穫45日前まで
散布量	200～300ml/10a	100～150ml/10a	30～50ml/10a

共通	周辺作物への飛散に注意し、除草剤用のドリフト低減ノズルを用いて均一に散布する
	雑草の生育が進むと効果が低下するので使用時期を逃さない
	重複散布はしない

効果	パワーガイザー液剤	大豆バサグラン液剤	アタックショット乳剤
効果	効果発現はやや遅効的で、薬剤散布後1週間程度で変色し、2～3週間で枯死する	散布2～3日後に黄化・褐変し、8～9日後に枯死する	薬剤散布翌日には効果が発現し、速やかに枯死、生育抑制に至る
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌が極端に乾燥している場合には効果が劣る恐れがあるので、適湿時に散布する ・散布後に降雨が予想される場合は使用しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・イネ科雑草には効果がないので、有効な除草剤との体系処理を行う ・アカザ、シロザ、イヌビユ、ホソアオゲイトウ等の雑草には低薬量では効果が劣るため、これら雑草の優占圃場では全面散布ではなく、畝間雑草茎葉散布で使用する ・エノキグサなどトウダイグサ科の雑草には効果が劣るので、この雑草の優占圃場では使用しない ・散布後、曇天、降雨日が続くと効果が劣ることがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・イネ科、アメリカセンダングサ、タデ類が発生する圃場では効果が劣るため、これら雑草に有効な除草剤との体系処理をする ・キク科、カヤツリグサ科には効果が劣る場合があるので、それら雑草が優占する圃場では使用を避ける ・散布後6時間以内の降雨は効果が減ずることがあるので、天候に留意する

除草剤名	パワーガイザー液剤	大豆バサグラン液剤	アタックショット乳剤
薬害症状	黄化、縮葉、生育抑制等 等	葉斑・色抜け、縮葉、黄化・褐変 等	褐変、縮葉、白化 等
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 大豆初生葉期以降の散布では、品種を問わず一時的な薬害が発生することがある 展着剤は加用しない 砂土では使用せず、碎土、整地は丁寧に行い種子が露出しないように、覆土はできるだけ均一に厚めに行う。 他剤との混用はしない 有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は避ける 	<ul style="list-style-type: none"> 薬害の発生程度や薬害からの回復には品種間差があるため、事前に薬害程度を確認して使用する 高温時や日照が強く蒸散が盛んな場合には、低薬量(100ml/10a)で使用する 低温、湿害、肥料不足等で生育不良の大豆には使用しない 播種時にエチルメトン粒剤を使用した場合、薬害が強くなる可能性がある 他剤との混用はしない 	<ul style="list-style-type: none"> 品種を問わず、処理時の展開葉に比較的強い薬害症状を生じる。処理時に低温等の不純な天候が続くと薬害からの回復に時間がかかることがある 展着剤は加用しない 大豆が生育不良の場合または生育不良が予想される場合は使用を避ける 他の茎葉処理剤との混用は避ける

効果の高い雑草種、注意事項等の詳細は各除草剤メーカーのホームページ等を確認すること。

これら除草剤の使用にあたっては、ラベルの内容をよく理解して使用方法を遵守し、最新情報も確認し、必要な場合は広島県立総合技術研究所 農業技術センター、各農業技術指導所の助言も参考にして使用すること。

注.農薬登録は令和8年1月現在

参考資料

診断に基づく大豆栽培改善技術支援マニュアル「大豆栽培における難防除雑草の防除」農研機構 中央農業研究センター (2021.3)

https://www.naro.go.jp/project/research_activities/soybeanzassoumanual_full_202103.pdf